お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター
0120-919-302
（修理受付専用ダイヤル）
FAX 0120-919-322

携帯電話・PHS等からは最寄のサービスセンターへ直接おかけください。

地区	事業所	所在地	〒	TEL	FAX
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003-0028	TEL(011)864−0440(代表)	FAX(011)863−3154
	札幌サービスセンター	札幌市白石区米里3条2丁目6-25	〒003-0873	TEL(011)879−2121(代表)	FAX(011)871−2400
	函館営業所	函館市西桔梗町21-2	〒041-0824	TEL(0138)48−6070(代表)	FAX(0138)48−6080
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078-8261	TEL(0166)37−2330(代表)	FAX(0166)37−2338
	帯広営業所	帯広市西18条北1丁目17-1	〒080-0048	TEL(0155)35−7518(代表)	FAX(0155)35−7510
	釧路営業所	釧路市花園町4-17	〒085-0038	TEL(0154)24−4191(代表)	FAX(0154)24−0451
	北見営業所	北見市美芳町9-1-30	〒090-0064	TEL(0157)26−2103(代表)	FAX(0157)26−2107
東北地区	青森支店	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)742−8255(代表)	FAX(017)742−8275
	青森サービスセンター	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)743−2971(代表)	FAX(017)743−1118
	秋田営業所	秋田市泉中央4丁目4-18	〒010-0917	TEL(018)864−5671(代表)	FAX(018)864−8468
	秋田サービスセンター	秋田市外旭川三千刈109-1	〒010-0802	TEL(018)864−5219(代表)	FAX(018)864−5760
	八戸営業所	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)24−5289(代表)	FAX(0178)45−4290
	八戸サービスセンター	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)47−6609(代表)	FAX(0178)71−1344
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)28−3910(代表)	FAX(0172)28−0191
	弘前サービスセンター	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)26−4770(代表)	FAX(0172)29−1133
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)622−4791(代表)	FAX(019)622−5244
	盛岡サービスセンター	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)604−0281(代表)	FAX(019)604−0283
	水沢営業所	奥州市水沢区水沢工業団地4丁目79	〒023-0002	TEL(0197)22−4155(代表)	FAX(0197)22−4452
	仙台支店	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-32	〒983-0035	TEL(022)235−3181(代表)	FAX(022)236−8810
	仙台サービスセンター	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-31	〒983-0035	TEL(022)783−1791(代表)	FAX(022)783−1792
	郡山営業所	郡山市亀田1-51-9	〒963-8033	TEL(024)938−2240(代表)	FAX(024)938−3021
	山形営業所	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)642−3255(代表)	FAX(023)642−3254
	庄内営業所	酒田市錦町1-183-1	〒998-0103	TEL(0234)31−0571(代表)	FAX(0234)31−0581
関東地区	首都圏支店	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1151(代表)	FAX(03)3927−1160
	首都圏サービスセンター	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3911−1131(代表)	FAX(03)3927−1130
	東京営業所	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1152(代表)	FAX(03)3927−1160
	立川営業所	立川市高松町1-22-3	〒190-0011	TEL(042)519−5271(代表)	FAX(042)528−2382
	千葉営業所	松戸市高塚新田95-5	〒270-2222	TEL(047)312−8330(代表)	FAX(047)312−8338
	横浜営業所	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852−4008(代表)	FAX(045)852−5540
	甲府営業所	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1567(代表)	FAX(055)268−1569
	北関東支店	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0812	TEL(048)651−1722(代表)	FAX(048)651−6370
	さいたま営業所	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0812	TEL(048)651−1231(代表)	FAX(048)651−6370
	高崎営業所	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)361−4806(代表)	FAX(027)361−9139
	宇都宮営業所	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5105(代表)	FAX(028)632−5205
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373-0825	TEL(0276)38−6571(代表)	FAX(0276)38−5508
	水戸営業所	水戸市笠原町653-2	〒310-0852	TEL(029)241−2172(代表)	FAX(029)241−4268
	つくば営業所	つくば市谷田部6788-19	〒305-0861	TEL(029)839−5325(代表)	FAX(029)836−1913
信越・北陸地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2126(代表)	FAX(0256)35−8519
	三条サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2129(代表)	FAX(0256)32−2137
	新潟東営業所	新潟市東区江南1-6-41	〒950-0855	TEL(025)286−9131(代表)	FAX(025)286−3313
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−5111(代表)	FAX(026)221−0039
	松本営業所	松本市笹賀大久保原7852	〒399-0033	TEL(0263)26−0051(代表)	FAX(0263)25−9961
	金沢支店	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0567(代表)	FAX(076)260−0775
	金沢サービスセンター	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0038(代表)	FAX(076)260−0738
	富山営業所	富山市田中町2-3-15	〒930-0985	TEL(076)444−0567(代表)	FAX(076)444−0611
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒918-8237	TEL(0776)23−0567(代表)	FAX(0776)23−0580
東海地区	名古屋支店	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746−6600(代表)	FAX(052)884−6551
	名古屋サービスセンター	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746−6603(代表)	FAX(052)884−6554
	静岡営業所	静岡市駿河区高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238−0005(代表)	FAX(054)238−0006
	岐阜営業所	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)268−7555(代表)	FAX(058)268−7550
	津営業所	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)234−8471(代表)	FAX(059)234−8472
	沼津営業所	沼津市西椎路888-1	〒410-0303	TEL(055)968−6210(代表)	FAX(055)968−6212
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6380−2111(代表)	FAX(06)6386−7262
	大阪サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6386−5670(代表)	FAX(06)6386−5588
	高松営業所	高松市今里町1-8-5	〒760-0078	TEL(087)835−1711(代表)	FAX(087)835−0160
	京都営業所	京都市伏見区竹田段ノ川原町70-1	〒612-8414	TEL(075)643−2002(代表)	FAX(075)643−0870
	神戸営業所	神戸市西区枝吉5-132	〒651-2133	TEL(078)922−2431(代表)	FAX(078)922−2438
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522-0024	TEL(0749)24−6239(代表)	FAX(0749)26−2116
	福知山営業所	福知山市荒河東町68	〒620-0061	TEL(0773)22−0827(代表)	FAX(0773)23−7592
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3310(代表)	FAX(082)871−3306
	広島サービスセンター	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3315(代表)	FAX(082)871−0272
	岡山営業所	岡山市北区辰巳35-103	〒700-0976	TEL(086)243−7751(代表)	FAX(086)243−7191
	米子営業所	米子市目久美町235-1	〒683-0035	TEL(0859)33−8157(代表)	FAX(0859)23−0709
	徳山営業所	周南市徳山字一ノ井手5631-4	〒745-0882	TEL(0834)22−5567(代表)	FAX(0834)22−5589
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−5771(代表)	FAX(092)474−5775
	福岡サービスセンター	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−6001(代表)	FAX(092)474−6414
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803-0828	TEL(093)592−8611(代表)	FAX(093)592−8666
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890-0034	TEL(099)281−1321(代表)	FAX(099)281−1252
	熊本営業所	熊本市尾ノ上1-11-12	〒862-0913	TEL(096)367−7361(代表)	FAX(096)369−6323
	長崎営業所	長崎県西彼杵郡時津町左底郷浜田74-1	〒851-2106	TEL(095)882−7710(代表)	FAX(095)882−7767
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880-0032	TEL(0985)29−1680(代表)	FAX(0985)25−0685
	大分営業所	大分市三佐1-19-7	〒870-0108	TEL(097)523−5161(代表)	FAX(097)523−5162
沖縄地区	沖縄営業所	宜野湾市宇地泊738 シーサイド・パーク102	〒901-2227	TEL(098)897−5677(代表)	FAX(098)897−5679

07129002

本社・工場　三条市東新保7-7　〒955-8510　TEL(0256)32−2111(大代表)
柏崎工場　柏崎市宝町2-58　〒945-0817　TEL(0257)23−5175(代表)
長岡工場　長岡市下条町倉ノ浦1069　〒940-1146　TEL(0258)22−2121(代表)

ホームページ http://www.corona.co.jp/

207WA0367- 0 1 2 3Ⓙ

CORONA

コロナ半密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

UH-7710SR

ユー エイチ　エス アール

もくじ

このたびはコロナ石油ストーブをお買いあげくださいましてありがとうございました。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
まちがった取り扱いは思わぬ事故や故障の原因となります。
お読みになった後も取扱説明書は「保証書」・「工事説明書」と共に必ず保管してください。

1．特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警　告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注　意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

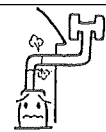
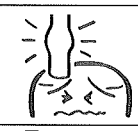
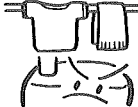
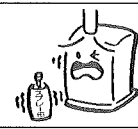
⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。

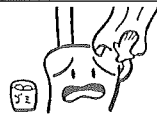
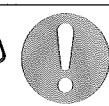
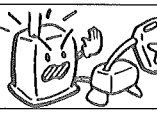
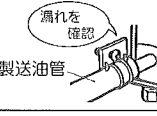
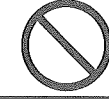
●記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

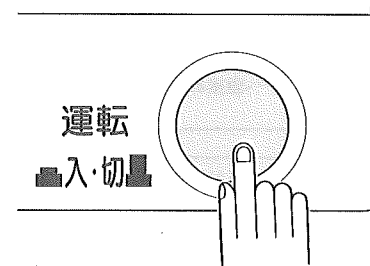
⚠警告（WARNING）

●ガソリン厳禁
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

●煙突外れ危険
煙突が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●煙突閉そく危険
煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●衣類の乾燥厳禁
衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

●スプレー缶厳禁
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

●低温やけどに注意
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

⚠注意（CAUTION）

●カーテン、可燃物近接禁止
カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については標準据え付け図例（２７ページ）を参照してください。

●給油時消火
火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

●油漏れ確認
油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

●異常時使用禁止
万一異常を感じたときは使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。

■消火の手順

ストーブ床暖房運転

●運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

お願い

●正常運転しない場合は、23～24ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

初めてお使いになるときの注意

●初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

16.廃棄するときの注意

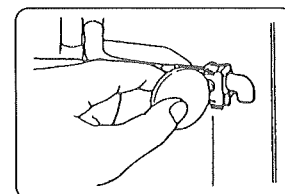
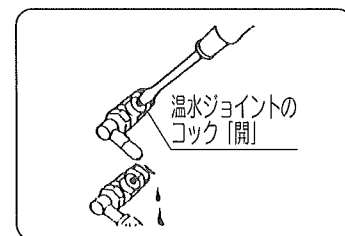
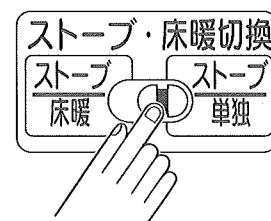
●ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

試運転

6. シスターンタンクの水位が下がり始めますので上限水位まで循環液を給水してください。
（シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）
●温水配管施工などの関係で、エアー抜きバルブではエアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。
（温水往き口のコックを閉にして温水配管接続をはずし、コックを開いて循環水を少しずつ流し、エアーを抜く（循環液がこぼれないように容器を用意してください。））

7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったら循環液の給水は終了です。
エアー抜きバルブを「閉」にしてください。
●循環ポンプの運転音が静かになります。

8. 温水配管路に、水もれのないことを確認してください。
●運転の途中で床暖パネル等に水もれがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切換えることにより停止させることができます。

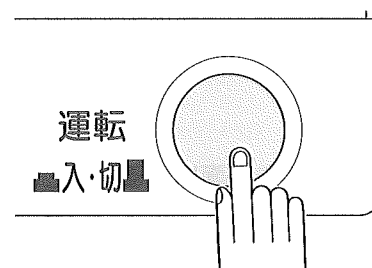
9. 異常のないことを確認したら完了ですので操作部の床温調節ボタン「高」「低」を同時に押してください。循環ポンプが停止します。
（表示部の設定床温表示ランプが消灯します。）

■運転

●運転は、ストーブ床暖房運転でおこない、正常に運転することを確かめてください。

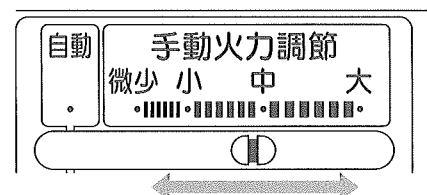
ストーブ床暖房運転

1. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。

2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
●ストーブは点火動作を開始すると同時に、電磁ポンプの空打ち音（初使用時）が数秒しますが異常ではありません。
●**ご注意** **初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。**
●約9～12分間の予備燃焼が終わると本燃焼に切り替わります。

運転
入・切

3. 温水配管経路に、水もれのないことを確認してください。

●運転の途中で温水配管経路に水もれがあった場合
①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り替えて循環ポンプを停止させてください。
②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

4. 異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
しばらくして床暖パネルが暖かくなることを確認してください。
●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。

⚠注意（CAUTION）

●高温部接触禁止
燃焼中や消火直後は、高温部、煙突、枠上部に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

●やかんのせ禁止
やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

●分解修理の禁止
故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

●腰をかけたり、物をのせないで
機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障や、やけどのおそれがあります。機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

●改造使用の禁止
改造して使用しないでください。
また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。

●換気扇使用禁止
ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しないでください。立消えして爆発燃焼するおそれがあります。
また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。

●ドラフトレギュレータの取り付け
煙突の引き（ドラフト）が強いと燃焼不良が発生します。次の煙突設置の場合は必ず、ダブルドラフトレギュレータ（別売品DR-1）を取り付けてください。
・集合煙突に接続する場合・標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
・風が強くて炎が沈むような場合

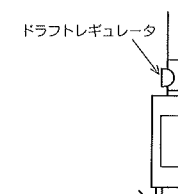
●電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

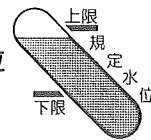
●電源プラグは確実に差しこむ
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

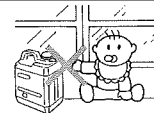
●長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因となります。

●電源プラグのお手入れをする
ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

●灯油の保管
灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどといっしょに保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

●変質灯油禁止
変質灯油、不純灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。

⚠注意(CAUTION)

●シスターンの水位に注意
循環水は少しずつ蒸発します。1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。上限水位以上は、入れないよう注意してください。床暖パネルを接続しない場合は、循環水は不要です。

●カーペットのはがれに注意
カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

●循環液(循環水・不凍液)の保管に注意
幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

●初めてお使いになるときの注意
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

●外出する時は消火
外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。

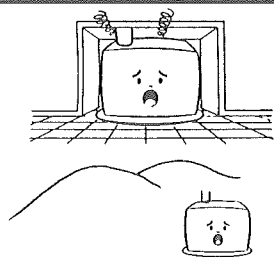
お願い(NOTICE)

●機器を廃棄するときの注意
ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜きとってください。(18ページ)
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

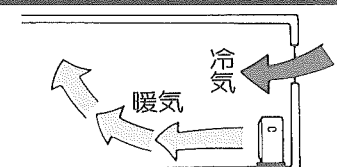
●灯油の廃棄
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

●マントルピースなどには据え付けないでください。

●標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

効果的に使用するために

●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。
使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

●ストーブの前は、反射板からのふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
●温水配管の長さが短くなるような位置にストーブを設置してください。

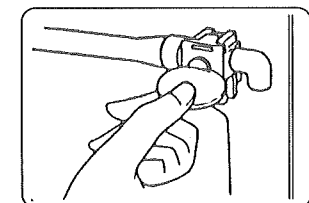
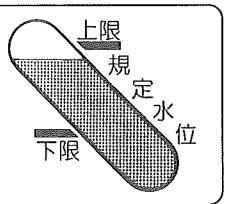
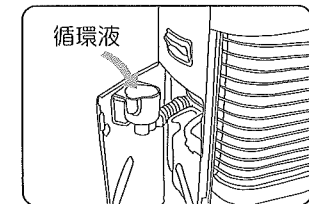
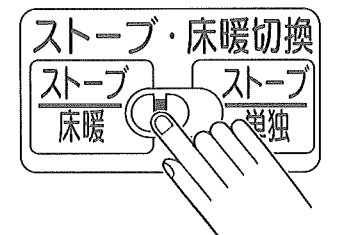
試運転

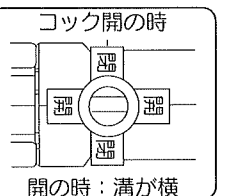
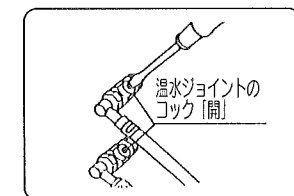
試運転は販売店又は据え付け業者とごいっしょに必ず行ってください。

■運転準備

● ⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。**
●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
●送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。
●配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
●安全装置をセットしてください。
〔定油面器リセットレバーを下に押し下げてください。〕
●タイマー運転になっていませんか。

■循環液の給水方法

1. 給水前にエアー抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
(工場出荷時には開いてあります。)
必ず全開にしてください。

2. ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位(上限水位)まで循環液(コロナ床暖房用循環液)を入れてください。

3. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。

4. 操作部の床温調節ボタン「高」「低」を同時に5秒間押し続けてください。
●循環ポンプが運転を開始します。
(表示部の設定床温表示ランプが点滅します。)

5. 器具の左背面にある往きと戻り両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。

15.据え付け・移設

据え付け・移設工事は販売店に依頼する

据え付けや移設工事は販売店または、据え付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据え付け場所の選定及び標準据え付け例

据え付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。取扱説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店又は据え付け業者とよくご相談してください。また、「標準据え付け例」については、下図を参照してください。

標準据え付け例

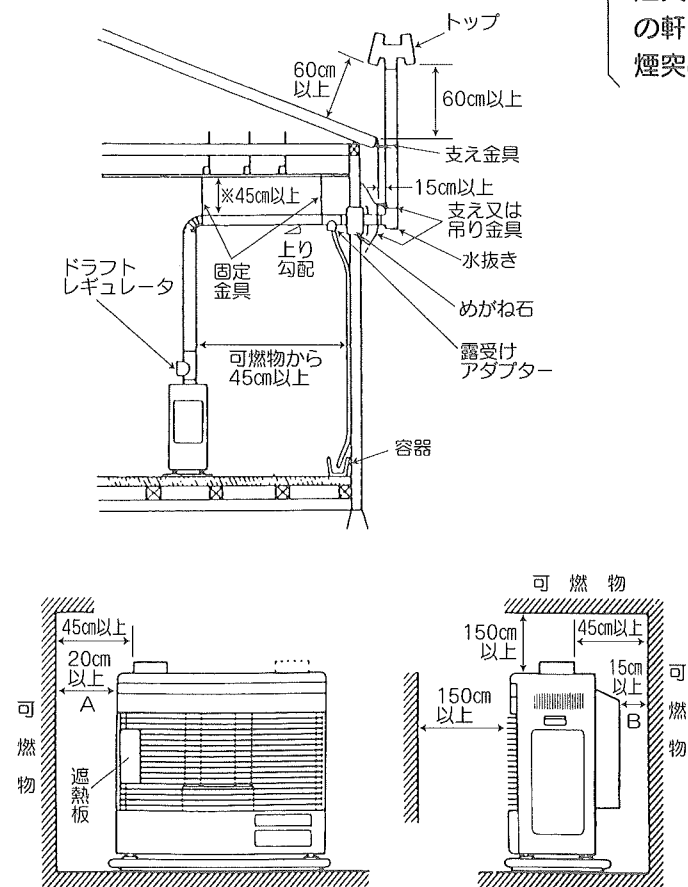
トップ
60cm以上
60cm以上
支え金具
※45cm以上
15cm以上
支え又は吊り金具
水抜き
上り勾配
固定金具
ドラフトレギュレータ
めがね石
可燃物から45cm以上
露受けアダプター
容器

（煙突の先端から水平距離１m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。
煙突の先端から1m以内に建物の開口部（窓など）がないこと。）

- ※印寸法は、煙突が本体から1.8mを超える場合は15cm以上。
- 煙突は、固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。
- 設置の場合は当該地区の火災予防条例にしたがってください。
- 風の強い地域では、必ず、ドラフトレギュレータを取り付けてください。
- 結露水が出る場合には、露受けアダプターを取り付け排出した結露水は、容器に受けてください。

（結露予防のため、煙突の横引き長さはできるかぎり短く、2m以内にしてください。）

可燃物
45cm以上
20cm以上
A
遮熱板
150cm以上
45cm以上
150cm以上
15cm以上
B

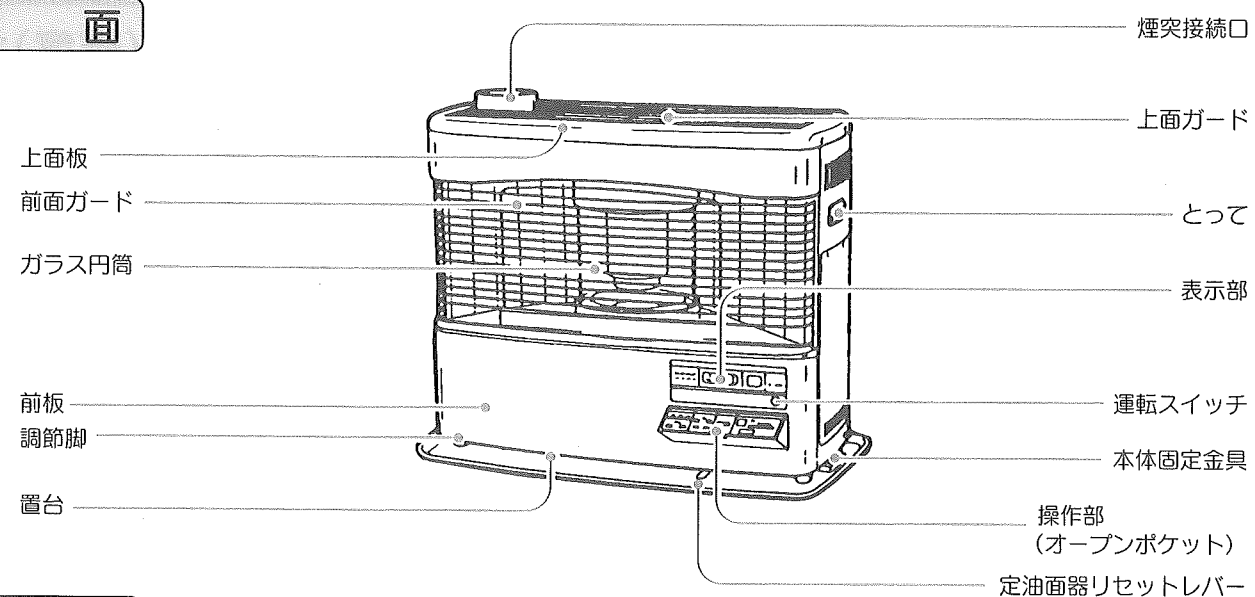
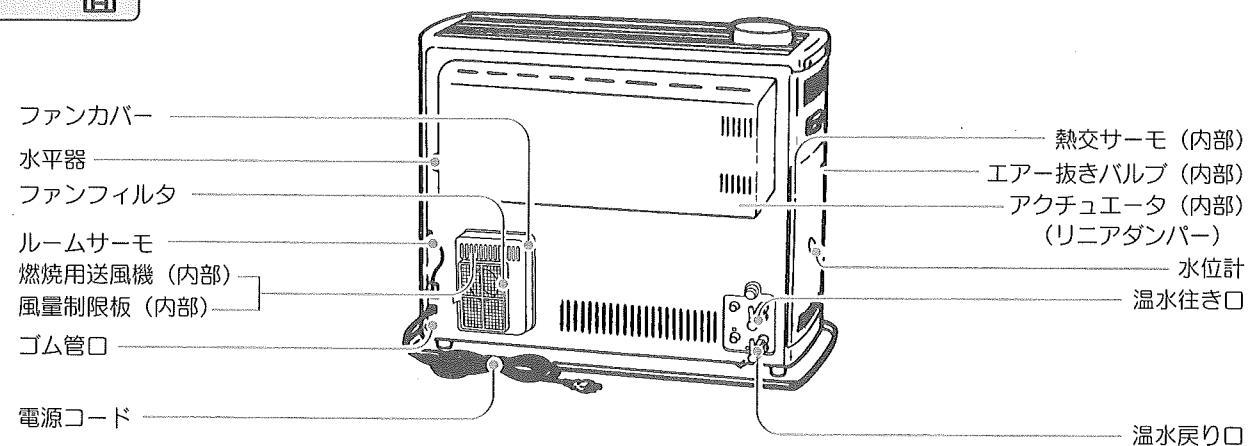
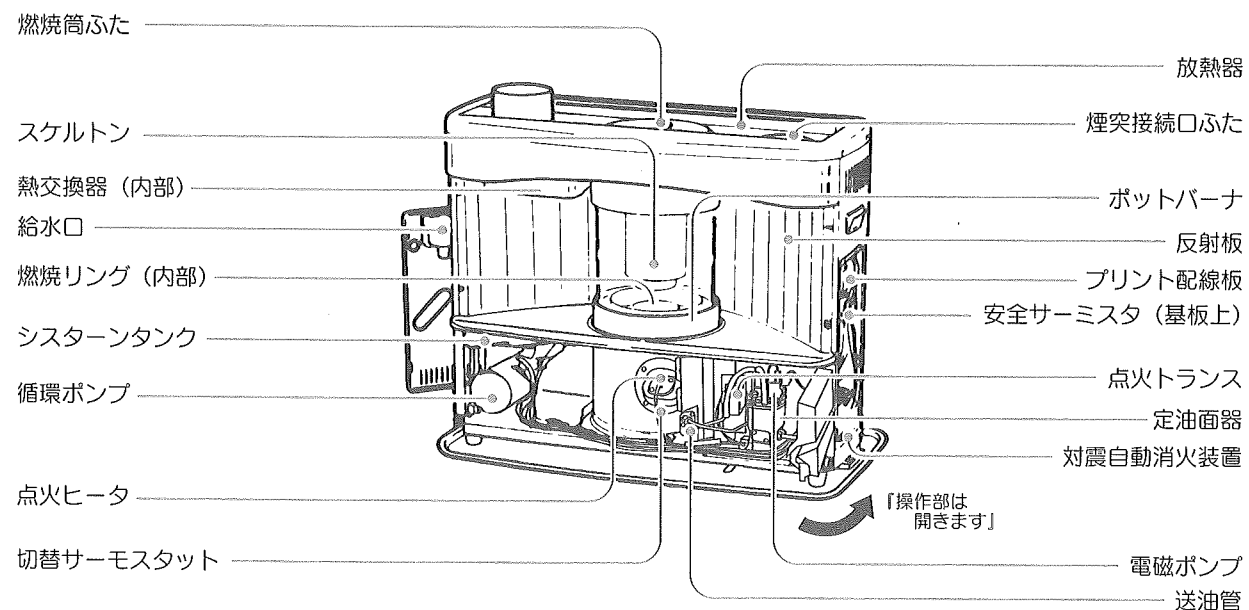
（備考）
1. Ａ・Ｂ寸法は、20cm以上、15cm以上と示していますが、煙突と可燃物との距離（45cm以上）でも規制されます。可燃物との距離が長くなるように設置してください。
2. 遮熱板を取り付けない場合は、A寸法を30cm以上離してください。

据え付け後の確認

据え付けが終わりましたら、もう一度、取扱説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、取扱説明書（工事編）に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

3.各部の名称

外観図

構造図

表示部の名称と働き

■運転停止中及びタイマー運転中は節電のため表示の明るさ（輝度）が落ちます。

配線図

赤赤 対震
赤黄青 FMパルス
白白 サーモスタット
青青 吸引ポンプ
黄橙赤茶 電磁ポンプ
黒黒 ルームサーモ
灰灰 湯温サーミスタ
青(3本) 白 操作部
青(6本) 白 操作部
青(5本) 白 操作部
ヒューズ5A125V
電源 黒黒
アース
アクチュエータ 茶茶
点火トランス 黄緑
循環ポンプ 赤白
表示部 黄(6本) 白
表示部 黄(5本) 白
表示部 黄(3本) 白
表示部 黄(2本) 白
運転SW 赤(4本) 白
熱交サーモ 緑緑
燃焼ファン 青白

14.アフターサービス

■保証について

●このコロナ石油ストーブには保証書がついています。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
●保証期間はお買い上げ日から1年間です。
●次のような原因による故障及び、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。（詳しくは保証書をお読みください。）
■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
■誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるときについて

●「故障・異常の見分け方と処置方法」（23・24ページ）にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
① 品名　② 型式の呼び　③ お買い上げ日　④ 故障の状況（出来るだけ具体的に）
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
●修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について
●当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先
●お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にご連絡ください。

仕　様

型式の呼び			UH-7710SR
種類			ポット式・屋内用・強制通気形・自然対流形・床暖房用
点火方式			電気点火式
使用燃料			灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量	床暖房運転	最大	9.72kW（0.945L/h）
		最小	2.26kW（0.22L/h）
	ストーブ単独運転	最大	9.72kW（0.945L/h）
		最小	2.26kW（0.22L/h）
発熱量及び熱効率	床暖房運転	最大	35,000kJ/h　熱効率 78.8%
		最小	8,150kJ/h　熱効率 81.9%
	ストーブ単独運転	最大	35,000kJ/h　熱効率 69.0%
		最小	8,150kJ/h　熱効率 67.0%
暖房出力	床暖房運転	最大	7.66kW　循環水量 150L/h
		最小	1.86kW　循環水量 100L/h
	ストーブ単独運転	最大	6.71kW
		最小	1.52kW
最大床暖房出力（床暖房運転）			最大燃焼時　2.09kW　循環水量 150L/h
熱効率		最高	81.9%（床暖房運転 目盛微少のとき）
		最低	67.0%（ストーブ単独運転 目盛微少のとき）
標準適室	床暖房運転	温暖地	木造 33.0㎡（20畳）　コンクリート 44.5㎡（27畳）
		寒冷地	木造 33.0㎡（20畳）　コンクリート 53.0㎡（32畳）
	ストーブ単独運転	温暖地	木造 28.0㎡（17畳）　コンクリート 39.5㎡（24畳）
		寒冷地	木造 29.5㎡（18畳）　コンクリート 46.0㎡（28畳）
本体水容量			2L（器具内蔵シスターン上限水位時）
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放
外形寸法			高さ600㎜　幅748㎜　奥行368㎜（置台を含む）
質量			33kg
電源電圧及び周波数			100V　50Hz/60Hz
定格消費電力	床暖房運転		点火時 93/100W・最大燃焼時 38/43W
	ストーブ単独運転		点火時 72/ 72W・最大燃焼時 15/15W
待機時消費電力			2.8W
床パネルの接続面積			4.5～19.5㎡（3畳～12畳）（最大燃焼時）
温水配管接続口			外径φ8㎜ニップル
煙突の呼び径			φ106㎜（3寸5分）
煙突の壁貫通部の孔径			φ110㎜
排気温度	床暖房運転		330℃以下
	ストーブ単独運転		450℃以下
電流ヒューズ			5A
安全装置			対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置
その他の装置			再点火安全装置・循環水過昇防止装置・燃焼用送風機異常検出装置・過電流防止装置・不着火検出装置・安全サーミスタ
付属品			置台1個・パックチューブ2.5m・ホースバンド2個・遮熱板1個・本体固定金具2個（ねじ2個）ゴム製送油管締付バンド2個・取扱説明書・工事説明書

備考）・標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

●オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

●操作ボタンを押すとピッと音がします。
●誤操作をするとピッ音が2回します。

■表示部の明るさ調節

●時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時ボタン」を押しながら「分ボタン」を押すことにより、表示部の明るさを2段階に調節することができます。
（このときピッ音が2回しますが、誤操作ではありません。）

床暖切換スイッチ
・「ストーブ床暖房」運転と「ストーブ単独」運転を切りかえます。

床温調節ボタン
温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
・「低」…1回押すたびに設定温度を6℃下げる。
・「高」…1回押すたびに設定温度を6℃上げる。

時計調節スイッチ
・「時計合せ」…現在時刻を合わせるときに「時計合せ」位置にします。
・「タイマー合せ」…タイマーセット時刻を合わせるとき「タイマー合せ」位置にします。
・「通常」…現在時刻やタイマーセット時刻を合わせたら、通常使用中は、「通常」に必ずもどしてください。

火力調節つまみ
・火力調節つまみを「微少」から「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
・火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（室温設定ボタンで室温を設定）ができます。

時ボタン
・時刻の「時」を合わせるときに押します。

分ボタン
・時刻の「分」を合わせるときに押します。
・時計調節スイッチの位置により、1回の押しの進み方が異なります。
「時計合せ」…1分ずつ変わります。
「タイマー合せ」…5分ずつ変わります。

室温設定ボタン
・火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定（30～10℃）ができます。
・「高め」…設定温度を1℃ずつ上げる。
・「低め」…設定温度を1℃ずつ下げる。

eco運転ボタン
・eco（エコ）運転のセット、解除をするときに押します。

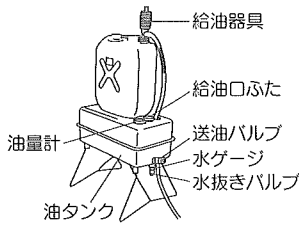
タイマーセットボタン
・タイマー運転
運転スイッチを「入」にし、タイマーセットボタンを押すことにより、タイマー表示ランプが点灯、時刻表示にタイマーセット時刻が継続して表示され、タイマー運転が開始されます。
（タイマー表示ランプが点灯しなければタイマー運転は開始されません。）
・セット時刻になると、タイマー表示ランプが消灯し現在時刻が表示されて自動的に運転が開始されます。
・タイマー運転の解除
タイマー運転中にもう一度、タイマーセットボタンを押すとタイマー運転が解除されます。

燃　料

燃料は必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。

- ⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- ⚠注意 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
- ⚠注意 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温及び、直射日光を避けた場所に保管してください。

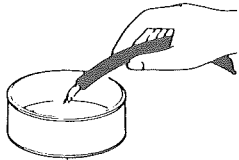
給　油

■給油の際の手順と注意

- 送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
- 給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。
- 給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。
- ⚠注意 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行なってください。

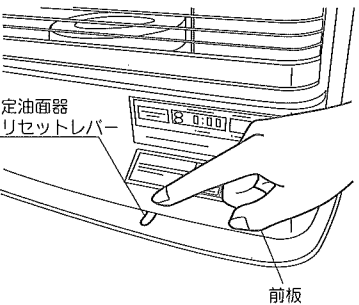
■給油口ふたは、確実に締めてください。

■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1. 油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3. ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。(油がこぼれないように容器を用意してください。)

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の定油面器リセットレバーを下に押し下げてください。

- リセットレバーは据え付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。
  万一、点火操作後灯油が出ずにモニターサインＥ２が表示されるような場合はリセットレバーを押し下げてください。
  (安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。)
- リセットレバーは乱暴に扱ったり、押したままの状態には絶対にしないでください。

■送油経路の油もれの確認

- 油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

	現　象	説　明
燃焼時・その他	青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	煙突の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じて販売店にご連絡ください。

現　象	症　状
点火時・燃焼時・消火時に「ボーン」という大きな音がした。	ストーブが損傷したりパッキンが飛散しているおそれがあります。
黒煙を出して燃えている。	燃焼が異常になっています。
置台に油が漏れている。	送油配管より油が漏れています。

様ご相談窓口にご連絡ください。　　※設定室温表示に自己診断モニタが表示されます。

黒煙を出して燃える(赤火が出る)	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	正常運転するがパネルがあたたまらない	沸とう音がする	振動が大きい	室温が低いのに火が大きくならない	処置方法
										販売店に修理を依頼する
										販売店に修理を依頼する
										21ページの「地震などの災害が発生したときの点検について」の点検項目を確認し、運転スイッチを押し直し再点火する
										開く
										ゴム製送油管を振る。山形になっている所は平に直す
										送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除する。油タンクの水を抜く
●	●									基準通りに設置する
●	●									ファンフィルタのほこりをブラシなどで掃除する
●	●	●	●	●						煙突の取付けを適正にする
●	●	●								正しく取り付ける
●	●	●								煙突を掃除する
			●							すきまをなくす
			●							もれ箇所を締め直す
●	●									販売店に修理を依頼する
										販売店に修理を依頼する
		●								煙突の高さを調べる。ドラフトレギュレータを付ける
						●	●	●		販売店に修理を依頼する
						●		●		規定水位まで補充液を入れる
						●	●			温水配管のつぶれを直す。バルブを開く
										はずれを直す
										設定室温、時刻などをセットし再度点火操作をする
										リセットし、再度点火操作をする
										はずれを直す
										原因を取り除く

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現象	説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	点火ヒータが着火温度になるまで２分程度必要です。 （室温により多少変化します。）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にポンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。

■使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコロナお客

原因 ＼ 現象	E１（途中消火）	E２（点火しない）	E３（対震作動）	E６（ルームサーモリード線はずれ）	E７（停電） E９（停電）	EA（燃焼用送風機異常検出）	E０（安全サーミスタ作動）	F１（熱交サーモ作動）	F２（湯温サーミスタリード線はずれ）	灯油がポットの底に出てこない	炎が大きくならない
点火ヒータの断線		●									
点火ヒータと点火しんとの位置関係が悪い		●									
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●								
送油バルブが閉まっている	●	●								●	
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●								●	●
定油面器に水、ごみの目づまり	●	●								●	●
煙突の設置が基準通りでない。煙突の横引きが長い											
燃焼用送風機のファンフィルタにほこりがたまった											
煙突工事不適当のため逆風現象がある	●										
燃焼リングの取付けが悪い											
煙突のつまり											
煙突の接続部にすきまがある											
油もれがある											
定油面器（電磁ポンプ）の故障	●	●									●
切替サーモスタットの故障		●									●
強風などにより、煙突の引きが極端に強い	●									●	●
循環ポンプの不良								●			
シスターンの循環水不足								●			
温水配管がつぶれている。バルブが閉じている								●			
ルームサーモリード線がはずれている				●							
長時間停電があった（30秒以上-E７表示）					●						
停電があった（１秒以上30秒未満-E９表示）					●						
湯温サーミスタリード線がはずれている									●		
ストーブの上面及び側面が囲われている							●				

■電気配線の確認

● ⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差しこんでください。**
●電源コードが煙突などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…**
●電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

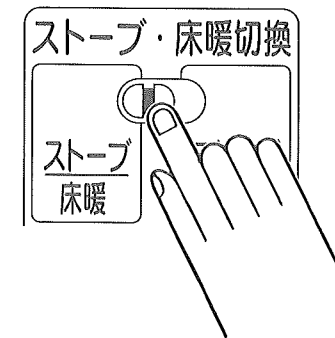
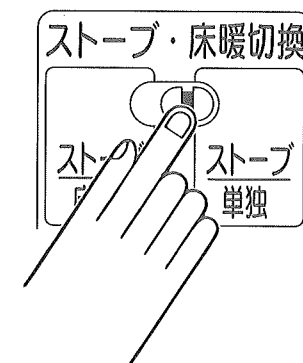
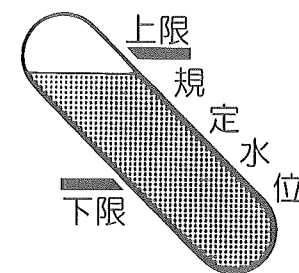
■接地（アース）の確認

●工事説明書にしたがい、接地（アース）がとられているかどうか確認してください。

■点火の要領と注意

床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をおこなう場合は「ストーブ床暖房」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前におこなってください。

●ストーブ床暖房で運転する場合

●ストーブ単独で運転する場合

循環水の水位確認

● ⚠注意 **ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環水（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。循環水が入っている場合は黄色になります。**
循環水は上限以上入れないよう注意してください。
水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

温水配管の水もれの確認

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。
●床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

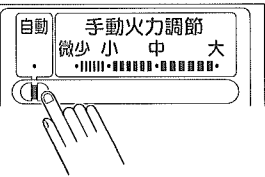
むやみに、ストーブ単独←→ストーブ床暖房に切りかえないでください。循環水のつまりの原因になります。
● ストーブ単独→ストーブ床暖房 …自動的に一旦消火して、約15～20分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環水の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。なお、熱交サーモの状態によっては、再点火後もストーブ単独のままの場合があります。この場合は運転スイッチを一旦「切」にし、冷却したあと（表示ランプ類消灯後）４～５分経過したあとに、「入」にしてください。
● ストーブ床暖房→ストーブ単独 …運転はそのまま継続します。しばらくして「ジュー」という循環水の蒸発音がしますが異常ではありません。

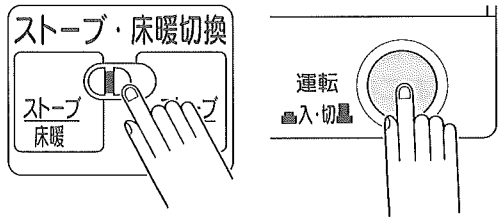
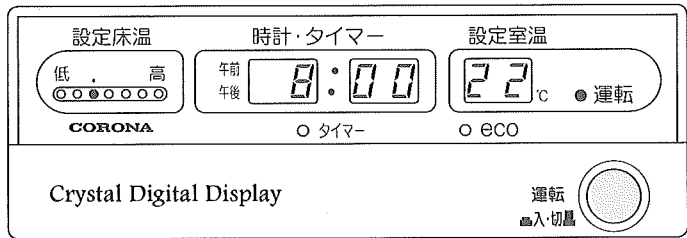
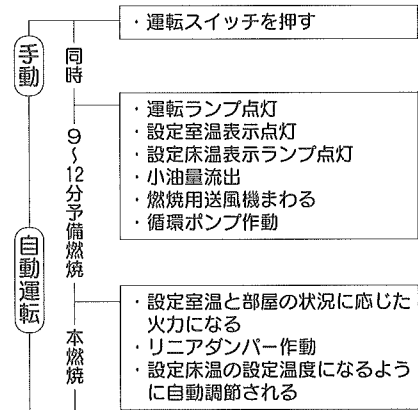
5.使用方法（使い方）

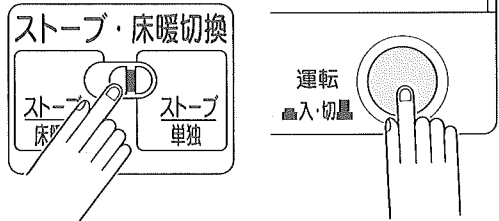
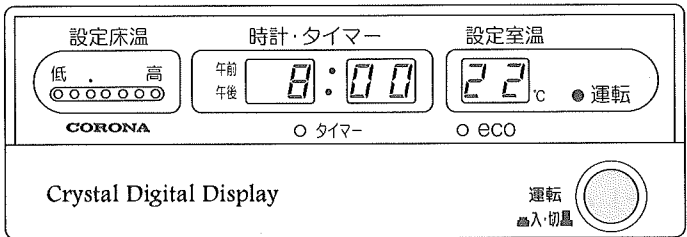
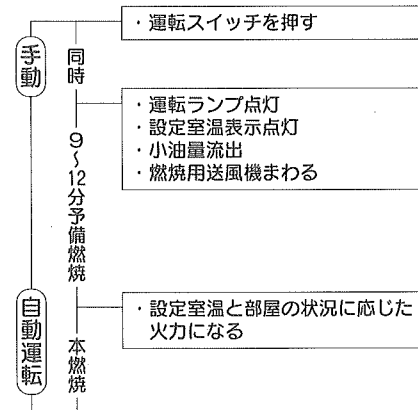
運転開始（点火）

●オープンポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

点火順序

■ストーブ火力調節「自動運転」の場合

●火力調節つまみを「自動」に合わせてください。設定室温と部屋の状況に応じた火力で燃焼します。
●時計合せは12ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

ストーブ床暖房運転

1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。

※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

ストーブ単独運転

1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微少～大）の場合は設定室温の表示はありません。）

※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

10.部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換はコロナ純正部品とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ず**コロナ純正部品**とご指定ください。
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項　目	内　容
使用期間により交換が必要な部品	ポットバーナ・点火ヒータ・燃焼リング・スケルトン ガラス円筒・各種パッキン
環境により劣化しやすい部品	燃焼用送風機・ゴム製送油管
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器

11.保管（長期間使用しない場合）

設置したままで保管される場合やしまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

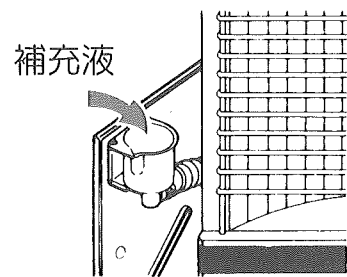
■手入れのしかた

1. **⚠注意 電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**
2. 油タンクの灯油は、すべて出してください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。
3. 定油面器のストレーナをはずして、水分やごみを除き、定油面器の中の灯油を抜いてください。
4. ファンフィルターのごみやほこりを取り除いてください。
5. 前板をはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。
6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
7. 燃焼室のサビなどがある所をペーパーで磨き「補修用の塗料」（別売品）で塗装してください。

■保管方法

1. きれいになったら、乾燥した場所に横倒しにしないでおしまいください。
2. 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。
3. ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。
4. 「取扱説明書」・「工事説明書」は、大切に保管してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■循環水の補給（適時）

シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発しますので、ときどき確認して、循環水が不足している場合は、そのつど規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。
●給水口扉を開き、床暖房専用補充液を上限水位まで追加してください。
（配管などからの水もれで補給する場合は、床暖房用循環液を入れてください。）

●コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
●他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
●循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので、取り扱いには十分注意してください。
●循環液は３年を目安に入れ替えてください。（開封した循環液も含む）
●循環液の凍結温度は、－20℃に調合されています。

■温水配管の水もれ確認（適時）

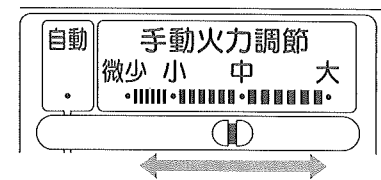
●ストーブ内部や温水配管接続部分から水もれがないことを確認してください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
・煙突まわりのはずれ、もれの確認
・灯油配管からのもれの確認
点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

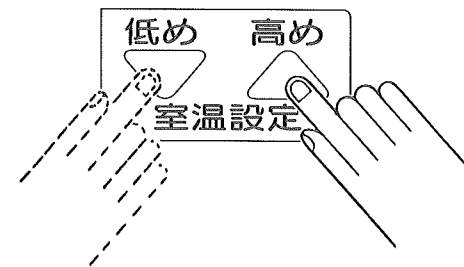
9.定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
２シーズンに１回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげ店または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（ＴＥＬ03－3499－2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店までお問い合わせください。

■ストーブ火力調節「手動運転」の場合

●オープンポケット内の火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
予備燃焼が終了すると火力調節つまみの設定火力で燃焼します。ただし、予備燃焼後、約４分間は最大火力になりません。

●運転スイッチを「入」にした時、運転ランプが点灯せずにタイマー表示ランプが点灯する場合は、タイマー運転となりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
●燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約１秒以上運転を停止すると自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。

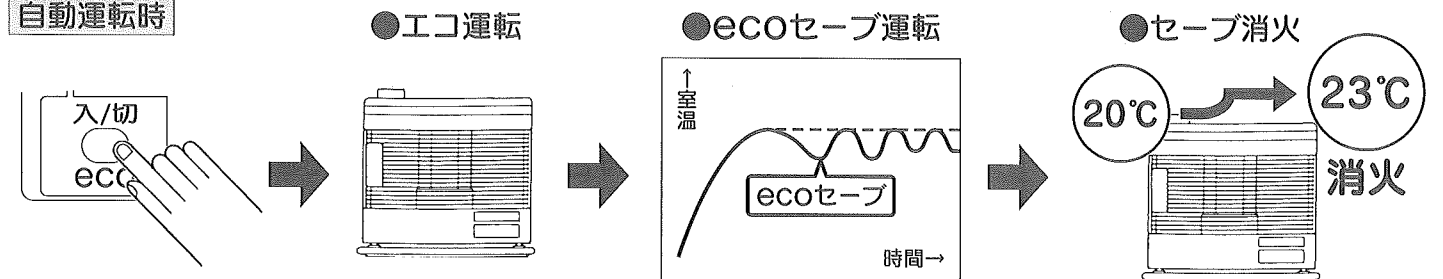
室温の調節（自動運転）

オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
表示部に設定室温（22℃）が表示されますので次のように調節してください。

●室温設定ボタン「高め」を押すたびに１℃上がります。（上限30℃）
●室温設定ボタン「低め」を押すたびに１℃下がります。（下限10℃）

●自動運転時に微少火力でも室温が設定温度より上昇する場合、設定温度より３℃上昇すると自動的に消火する
eco（エコ）運転をおすすめします。（P10～P11　eco（エコ）運転の項参照）
室温が設定温度より３℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎを抑えます。

eco（エコ）運転

eco（エコ）運転は、自動運転時にeco運転ボタンを押すだけで設定温度が20℃に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎを抑え、快適で経済的な室温をキープします。
また､自動運転時は最大火力を70～90%､手動運転時は最大火力を80～90%に抑えてお部屋の暖めすぎを防止します。

自動運転時

ワンタッチで設定温度を20℃に自動切換え
※設定温度は変更できます。

最大火力を80%におさえて室内を暖房

ムダな暖めすぎを抑え、快適な室温を保ちます。

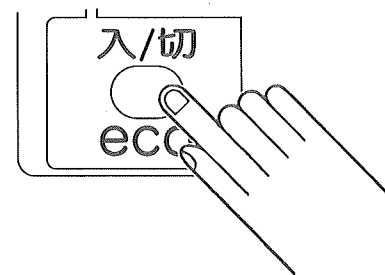
室温が設定温度より約3℃上昇すると消火し、設定室温まで下がると再点火します。

●室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
●室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
●室温が24℃以上で30分以上運転した場合、（設定温度を22℃以上に設定）最大火力を70%におさえて運転します。

手動運転時

●室温が20℃以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
●室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。

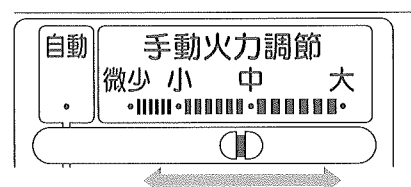
eco（エコ）運転

■セットのしかた　eco運転ボタンを押してください。

●「eco」運転表示ランプが点灯し、自動運転の場合設定温度が20℃に設定され、eco（エコ）運転になります。
●上記の設定温度20℃は初期設定ですので、室温設定ボタンによりご希望の室温を10℃～30℃に設定できます。
●手動運転の場合は最大火力時にeco（エコ）運転がはたらきます。

解除するときは…再度、eco運転ボタンを押してください。

●eco（エコ）運転が解除されます。（eco（エコ）運転前の設定にもどります）
●eco（エコ）運転中に運転を停止し、再び運転を再開したときは、eco（エコ）運転を行います。

火力調節（手動調節－手動運転）

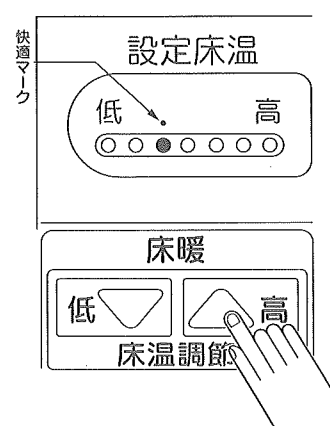
室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。
次のようにしてください

●火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

■炎の状態

ストーブの据え付けや煙突の設置条件で、炎は多少変化します。

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。
●炎が片燃えなどをする場合は、火力調節つまみをスライドさせて、炎の片燃えのないように調節してください。

床暖パネルの温度調節

ストーブ床暖房運転の場合、循環水が設定温度になるように、自動的に温度調節されます。又、設定床温表示ランプに快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33～34℃（床暖パネル３畳の場合）に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。

1．特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置（設定床温表示ランプの3つ目）に設定されランプ表示します。
2．床温調節ボタンを押すと次のように床温調節でき設定床温表示ランプも移動点灯します。
・「低」……１回押すたびに設定温度を６℃下げ、ランプ表示が左側へ移動。
・「高」……１回押すたびに設定温度を６℃上げ、ランプ表示が右側へ移動。

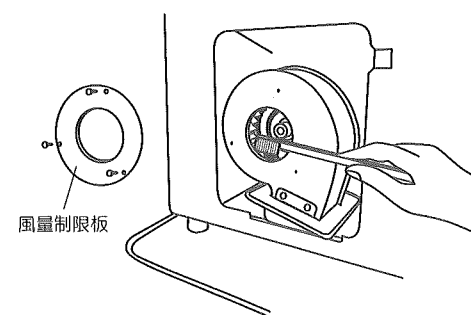
●床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。
●カーペットの表面が熱くなりすぎないよう使用温度には、十分注意してください。

■ガラス円筒内部の掃除（適時）　（お買い求めの販売店に依頼してください。）

●ご注意　掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
●長期間の使用や、油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。
ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、19ページ「ポットバーナの掃除」の項にしたがい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。

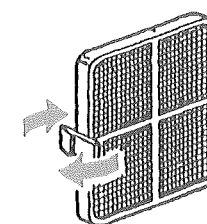
●ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたりしないよう注意してください。
●運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■燃焼用送風機の掃除（年１回以上）　（お買い求めの販売店に依頼してください。）

●燃焼用送風機ファンにごみやほこりがたまると、送風力が弱くなり燃焼が悪くなったり、音が大きくなってくることがあります。このようなときには、燃焼用送風機ファンのほこりを取り除いてください。

ストーブ後側のファンカバーと風量制限板をはずし、ブラシなどで静かにほこりを取り除いてください。
●掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

●燃焼用送風機ファンに力を加えますと、曲りや傾きを生じて、回転のときに音が出ますので力を加えぬようにしてください。

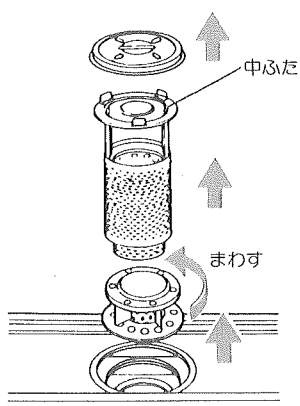
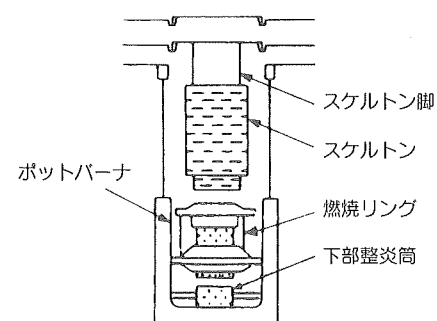
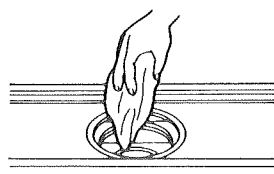
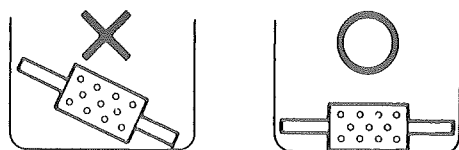
■燃焼用送風機ファンフィルタの掃除（適時）

●ファンフィルタがごみやほこりで目づまりすると、燃焼不良の原因になります。次の要領でストーブ裏面のファンフィルタの掃除を行ってください。

1．左図の矢印のようにファンフィルタに力を加えながら引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。
2．ブラシなどでフィルタのほこりを取り除いてください。
3．掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

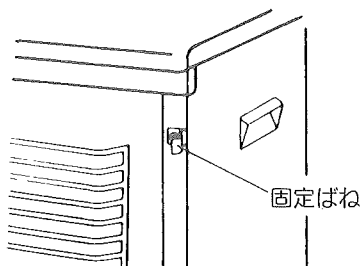
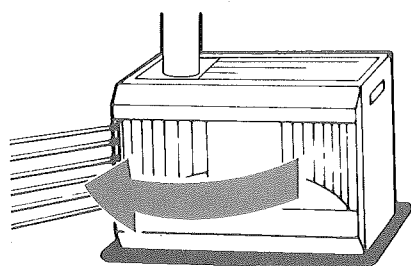
点検、手入れの必要項目、時期、方法

■ポットバーナの掃除（適時）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

●ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。**

●ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ポットバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。

1. 上面ガードをはずしてください。
2. 燃焼筒ふたをはずしてください。
3. スケルトンは中ふたに取り付いています。スケルトンをガラス円筒にあてないようにして、取りはずしてください。
4. 燃焼リングをまわして取り出してください。
5. ポットバーナ底部の下部整炎筒を取り出してください。

6. 点火ヒータ、点火しんをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布などでふきとってください。
7. 組立ての際、燃焼リング及び、下部整炎筒は、左図のように正しく確実に取り付けてください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）

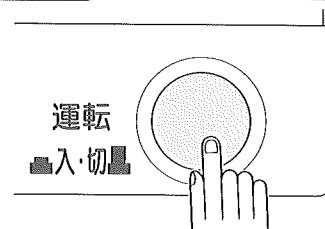
●ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。**

●反射板及びガラス円筒にほこりがたまりますと、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。

前面ガードのセット

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）からはずし左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで、反射板及びガラス円筒をきれいに拭いてください。
4. 掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。

●前面ガードは、きちんと取り付けてください。

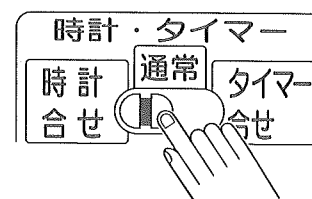
運転停止（消火）

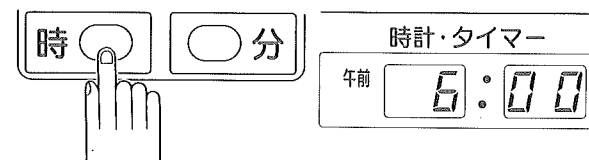
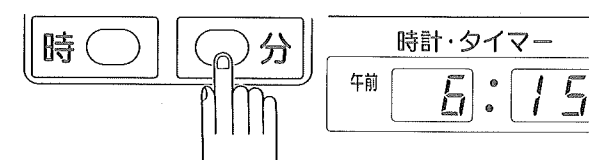
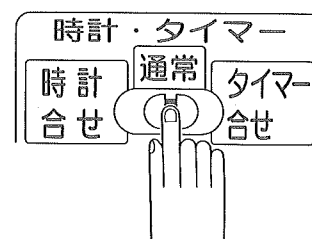
消火順序 ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転

運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプ（ストーブ床暖房運転のみ）が停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

●⚠注意 **2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。**
●外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
●運転停止後、燃焼室が冷却（ランプ類が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス円筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

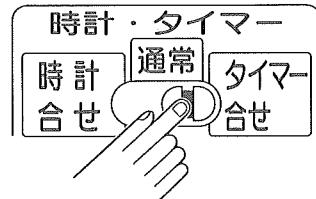
●燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作（約1秒以内）の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
●停電時には、必ず運転スイッチを「切」にしてください。

現在時刻の調節方法

1. オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は−−：−−を表示します。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

例：午前6時15分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。

②「分」ボタンを押して“午前6：15”にします。

3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。
（時計は、時計調節スイッチを「通常」位置にもどした時点から動き始めます。）

●必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。
●30秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありませんがそれ以上の停電で、時刻表示が−−：−−を表示した場合は、時刻合わせを行ってください。

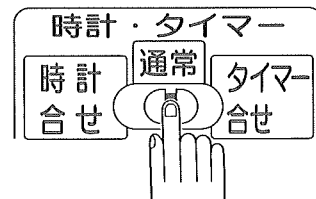
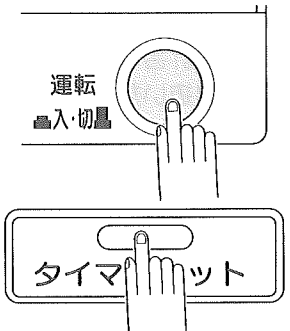
タイマーの使用方法

■運転時刻の合わせ方

1. オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は5分ごとに動きます。

例：午前6時30分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して"午前6：00"にします。

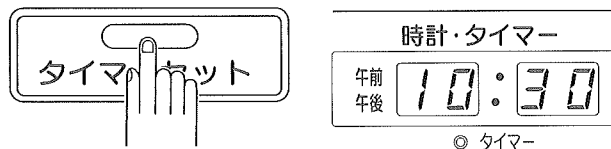
②「分」ボタンを押して"午前6：30"にします。

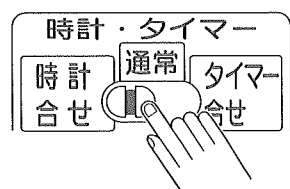
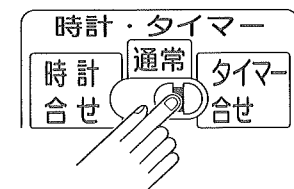
これでタイマーセット時刻が記憶されました。

3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。時刻表示には現在時刻が表示されます。

■タイマー運転方法 ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転

1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
   (運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
2. 運転するときのご希望の室温又は、火力に合わせてください。
3. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
   (ストーブ床暖房運転のみ)
4. タイマーセットボタンを押してください。
   時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
   (この時、燃焼用送風機が約10分間運転しますが異常ではありません。)

●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
●運転中にタイマーセットボタンを押すと、ストーブは自動消火し、運転を停止します。
●タイマー運転中は節電のためタイマーセット時刻表示の明るさ(輝度)が落ちます。

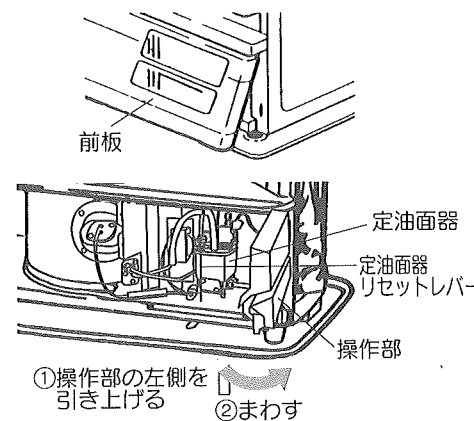
●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●おでかけのときのタイマー点火は避けてください。

■タイマー運転の解除

●タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され、タイマー運転が解除されます。
●このままであれば自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、運転スイッチも「切」にしてください。

■タイマーセット時刻・現在時刻の確認

現在時刻の確認

タイマーセット時刻の確認

①時計調節スイッチを「時計合せ」又は「タイマー合せ」に合わせます。
②現在時刻又は、タイマーセット時刻が時刻表示に表示されます。
③確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

■定油面器のストレーナの掃除(適時) (お買い求めの販売店に依頼してください。)

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
ごみがたまると、灯油の流れを妨げて、充分な火力が出なくなります。次のように掃除してください。

1. 油タンクの送油バルブを閉じてください。
2. ストーブの前板を止めているねじ(5本)をはずし、前板の下側を引き上げて、前に引いて取りはずしてください。
3. 操作部を左図のように、①操作部の左側を少し引き上げて、②手前にまわして、開いてください。定油面器がみえてきます。
4. 定油面器リセットレバーを取り外してください。
5. ストレーナの掃除口にハガキなどの厚紙を差しこんで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
6. 定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。
   ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。
   (水で洗わないでください。)

組み立てるときは
●ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
●ストレーナを逆に入れないでください。また、穴位置が、必ず、右横になるように取り付けてください。
●ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
●油もれがないか確認してください。

■点火ヒータの点検(シーズン初め) (お買い求めの販売店に依頼してください。)

●点火ヒータや点火しんにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。
点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

● **⚠注意** ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

●ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
又、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

●油もれのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

● **ご注意** ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。

●屋内でゴム製送油管を使用しているときは、手で少し曲げ膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
交換の目安は、3年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

●油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■煙突の接続部のゆるみ及びトップの周囲（シーズンの初め、適時）

●煙突の接続部、煙突トップのはずれがないかを点検してください。煙突が腐食したり、穴があいたりしていると危険ですので新しい物と交換してください。

●煙突の近くには燃えやすいものを置かないでください。

●煙突内は結露で生じた水滴が凍ってつまると危険です。点火時に、煙突のつなぎ目やストーブより異常な煙が出たら消火して、煙突内部を点検してください。

ポットバーナに油をためてしまったとき（お買い求めの販売店に依頼してください。）

●ポット内に油がたまった場合、このまま点火操作をすると異常燃焼したり、点火不良となります。ボロ布などでポット内の油を吸いとってください。（19ページ「ポットバーナの掃除」を参照。）
ポットバーナに油がたまったことに気付かないで点火したときは、ポットにたまった油が燃えつきるまで炎が大きくなって燃焼します。
このようなときは、すぐ運転スイッチを「切」にし、たまった油が燃えつきるまでそのままお待ちください。このとき電源コードのプラグは抜かないでください。

●この場合、ガラス円筒がすすけることがあります。ストーブが冷却してから燃焼筒ふた、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。
（20ページ「ガラス円筒内部の掃除」参照。）

自己診断モニタについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブル状態が設定室温表示に記号表示（自己診断モニタ）されます。
この場合記号表示の内容を、ストーブ左側面に印刷された自己診断モニター覧表、または23～24ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧のうえ、必要な処置をしてください。

〈自己診断モニター覧表〉

表示	原因	解除方法	表示	原因	解除方法
E1	途中消火	①	EC	ルームサーモ短絡	①
E2	不着火		EE	停止時ポット異常過熱	
E3	対震作動		EO	基板温度異常	
E6	ルームサーモ断線		F1	熱交サーモ作動	②
E7・E9	停電		F2	湯温サーミスタ断線	
EA	燃焼用送風機異常検出		FC	湯温サーミスタ短絡	

■解除方法

①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
②電源プラグを一旦抜き、1分後に再び入れ直してください。（必ず販売店に修理を依頼してください。）

使用上の注意

床暖パネルの温度調節

●床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。
カーペットの表面が熱くなりすぎないよう使用温度には十分注意してください。

循環水の凍結予防（循環液の注入）

寒冷地だけでなく、暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために、必ず循環液を入れてください。

●循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。

●循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）

本書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」の他に、次の項目についても注意してください。

●上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取りはずした場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。

●クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 （E3 表示）	●強い地震や衝撃を受けたとき ⇩ ・モニターサイン E3 表示 ・自動的に消火	●ストーブの周辺に異常がないか確認し、点火操作してください。 （対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます。）
点火安全装置 （E1 表示・E2 表示） （途中消火）（不着火）	●点火ミスをしたとき ●途中消火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ⇩ ・モニターサイン E1 表示または E2 表示 ・自動的に消火	●日常の点検・手入れ（17～21ページ参照）をしてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
停電安全装置 E7 表示・E9 表示 （30秒以上）（1秒以上 30秒未満）	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後モニターサイン E7 表示または E9 表示 ・自動的に消火	● E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ● E9 の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
再点火安全装置	●消火直後、再点火操作したとき ⇩ ・燃焼室の温度が冷却後でないと点火動作に入らない	（●燃焼室の温度冷却後、自動的に点火動作を開始します。）
不着火検出装置 （E2 表示）	●点火操作後約20分経過しても切替サーモスタットが切り替わらないとき ⇩ ・モニターサイン E2 表示 ・ストーブの運転を停止	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 （ポットバーナ内に油がたまった場合は取り除いてください。）
燃焼用送風機異常検出装置 （EA 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・モニターサイン EA 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
安全サーミスタ（基板上:73℃） （E0 表示）	●ストーブの上面及び側面が囲われているとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・モニターサイン E0 表示 ・自動的に消火	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。
循環水過昇防止装置 （F1 表示）	●循環水が極端に減少したとき ●循環水が循環しないとき ⇩ ・モニターサイン F1 表示 ・ストーブの運転を停止	●循環水の量を確認する等により循環水過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。